

令和 5 年度食品ロス削減推進表彰 審査委員会委員長 講評

消費者庁と環境省の合同では第 2 回目となる今回の「令和 5 年度食品ロス削減推進表彰」には合計 93 件の御応募をいただきました。まず始めに、御応募いただいた多くの皆様に、審査委員を代表して、心からお礼を申し上げます。

昨年に引き続き、「多様な主体」の皆様から様々な素晴らしい取組を御応募いただきました。全般的に内容がとても充実している印象があり、審査は難航を極めました。

その中で、貢献・成果、波及・将来性等について審査委員会で議論を行い、内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞 1 点、環境大臣賞 1 点、消費者庁長官賞 2 点、環境事務次官賞 2 点、審査委員会委員長賞 4 点、審査委員会特別賞 1 点を推薦し、受賞者の決定に至りました。

内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）賞に選ばれた「オイシックス・ラ・大地株式会社」は、創業時から規格外野菜等の販売に取り組むとともに、流通における需要と供給のデータマッチング、食卓での廃棄を減らすミールキット、他社と連携したアップサイクル商品の開発等、多岐に渡る食品ロス削減の取組が、多くの関係機関のヒントとなる取組として評価されました。

環境大臣賞に選ばれた「mottECO 普及コンソーシアム 2023」は、競合・業種の垣根を超えた複数の事業者と自治体が、mottECO の普及を目的として設立したコンソーシアムです。自治体と複数の企業が連携し、mottECO 実践店舗の量的拡大に取り組んだこと等が高く評価をされました。また、mottECO 普及イベントとして、「～食べ残しをなくそう！～ 食品ロス削減「mottECO（モッテコ）」FESTA2023」を自主開催し、ホテル産業・外食産業・自治体等の関心の拡大につなげるなど、活動の広がりが顕著である点も高く評価されました。

消費者庁長官賞には、以下の 2 点が選ばれました。

「カネハツ食品株式会社」は、多数のメーカーと連携して子ども食堂への支援を精力的に行っている点、中間支援団体や配送業者と連携して配送システムを構築し、継続的な支援につなげている点が評価されました。

「マルハニチロ株式会社」は、物流・フードバンクと連携し、神奈川県内での寄附スキームを構築しており、業界大手が取り組むことによる他社への波及効果と将来性、冷凍食品の寄附という先進性が評価されました。

環境事務次官賞には、以下の2点が選ばれました。

「生活協同組合コープこうべ」は、廃棄予定商品のフードバンク等への提供、フードドライブの実施、店舗における食品ロス削減、食品ロス削減に関する啓発活動（「てまえどり」の呼びかけ）などに取り組んでいます。食品ロスの削減につながる多様な取組を実施している点、店頭でのフードドライブの実施や「てまえどり」の呼びかけを他団体に先駆けて実施し、その取組が定着・普及している点等が評価されました。

「株式会社 Mizkan Holdings」は、余らせがちな野菜や、皮や芯などのはみだし野菜もおいしく食べきるレシピとして「もったい菜漬け」「もったい鍋」「まるごとベーカリー」を提案し、消費者に対して、家庭の食品ロスの中でも最も多いとされる野菜の直接廃棄、過剰除去による食品ロスの削減を働きかけています。自治体とも連携しながら家庭への普及啓発を行うと共に、その取組みを全国に広げている点等が評価されました。

その他に、クラス全員で作成した「食品ロス削減パンフレット」が生んだ取組みが高校や中学校にも連鎖を広げた「佐伯市立 渡町台小学校」、神奈川県内の子ども食堂やフードパントリー団体に冷凍品も提供する食支援「ビーバーリンク」をネットワーク化している「特定非営利活動法人 セカンドリーグ神奈川」、各食品メーカーの余剰食品を福袋のように詰め合わせユーザーへ届けるサブスクリプションサービスを展開する「株式会社ロスゼロ」、温暖化対策アプリを通じて食品ロス削減アクションを推奨する「ふじのくに COOL チャレンジ実行委員会」の4点を審査委員会委員長賞に選びました。

また、取組年数が短いものの、全国の大学生等とも精力的に連携され、廃棄野菜を活用したスープの販売等に取り組む「金沢大学生チーム わこころ」を審査委員会特別賞に選びました。

これら合計 11 点の受賞者以外にも数多くの興味深い取組を御応募いただきました。残念ながら今回は入賞には届かなかったわけですが、これからも取組を御継続いただき、ぜひ来年度以降、更に発展した形で御応募いただくことを期待しています。

食品ロス削減は、それぞれの皆様が、「他人事」ではなく「我が事」として捉え、「理解」するだけでなく「行動」に移していただくことが重要です。今回の表彰では、消費者の取組だけでなく、事業者による取組も含まれておりますが、事業者と消費者双方の取組が広く共有されることで、食品ロス削減への取組の輪が広がり、更なる食品ロス削減につながることを期待しています。

令和5年度食品ロス削減推進表彰
審査委員会委員長 小林 富雄